



【進行】 仙台商工会議所1号議員
仙台商工会議所青年部OB
橋浦 隆一 氏
今野印刷株式会社
代表取締役社長

【事業内容】
企画・製作・印刷、
広報支援、マーケ
ティングリサーチ・
サポート 等

特集 産学連携で加速

地域経済を牽引する リーダーの育成

日本商工会議所青年部では、ビジネスプランを練り上げるプロセスを仲間と共に学び、経営者としての資質を向上させることを目的に、「ビジネスプランコンテスト」を毎年開催しています。11回目となる平成25年度は70人の応募があった中から、見事グランプリに輝いたのは、仙台商工会議所青年部（以下、仙台YEG）の福田大輔氏。また準グランプリ2名も仙台YEGのメンバーが受賞し、上位入賞を独占しました。

自立的な地域経済の 発展をめざして

橋浦 福田さん、この度の日本商工会議所青年部「ビジネスプランコンテスト」でのグランプリ受賞、おめでとうございませう。まず、受賞の感想をお聞かせいただけますか。

福田 ありがとうございます。大変光栄であり、同時にプレッシャーも感じています。

今回、仙台YEGから3人が受賞したというのは、やはり東北大学さんとの連携が大きかったと確信しています。3人とも東北大学の「地域イノベーションロデオサー塾」（以下、RIPS）に関わらせていただき、さまざまな考え方を身につけ、人間力を上げる経験をさせていただきました。

橋浦 RIPSは大滝先生が立ち上げから尽力された東北大学の「地域イノベーション研究センター」の事業のひとつとして展開されていますが、RIPSを開塾した経緯についてお聞かせいただけますか。

大滝 福田さん、今回はおめでとうございました。私たちも大変うれしく思っています。

RIPSについてですが、時代の変化に照準を合わせて、新しいものを仙台で

創り出し、地元企業が自立をするためのビジネスプランを作っていく、またそれを具現化することをめざして開塾しました。試行的にスタートしたのが平成24年度で、翌25年から本格的に稼働しています。

実は以前から全国のさまざまな経営塾をはじめ、地元のリーダー人材を育成する仕組みには、どのようなものがあるのかということを探りました。一方で、自立的な地域経済の発展に何が必要かについて、かなり精査しました。一方で、地元企業の皆さんのお考えを聞きたいという思いもあり、当時、仙台YEGの会長をされていた橋浦さんにお声がけして、青年部の方々に「ご意見を伺い、福田さんを含む十数名の方々には、いわばRIPSの0期生としてカリキュラム作成にもご協力いただきました。今では、仙台YEGから入塾する方の推薦枠を設けるまでに関係が進化しています。

ビジネスプランの 事業化を大学が支援

橋浦 今回、福田さんがグランプリを受賞したビジネスプランをご紹介いただけますか。

福田 概要をお話ししますと、飼料用米を休耕地や被災した農地に作付けしてもらい、その米を弊社の工場に熟を加え

そこで、今回は福田さんがビジネスプランの立案、具現化の方法などを学んだ東北大学の「地域イノベーションプロフェッサー」の講師として、塾生の指導にあたる大滝精一先生をお招きし、産学連携のあり方、仙台宮城の企業の役割などについて、お二人に語り合っていました。



仙台商工会議所青年部

福田 大輔 氏

株式会社福田商会
常務取締役

【事業内容】
卸売業(肥料・飼料・建材)、
不動産賃貸、ANAホリデー
イン仙台経営、等



東北大学大学院経済学研究科 教授

大滝 精一 氏

フレック状にする技術によって、肉牛向けの飼料として流通させるというものです。飼料用米は畜種としては鶏や豚が主流で、牛の場合は消化率の問題で、あまり流通していかないのが現状です。宮城県畜産試験場と連携して肉牛向けに給飼試験を行っていただいたところ、既存飼料から代替しても最高等級であるA5ランクの肉質も可能との結果も出ています。水稲農家さん、畜産農家さんと連携しながら新しいブランド肉を作ることで、一次産業全体を盛り上げる取り組みをやってみたいというところで、このビジネスプランを掲げました。これによって価格が高騰している外国産飼料原料を、国内原料である飼料米に置きかえることが可能になり、食料自給率の向上、畜産農家の経営の安定にも貢献できるのではないかと考えています。

大滝 まさに農商工連携、六次産業の新しいビジネスモデルを作ることになると思いますが、福田さんの会社は商社機能をお持ちです。人と人、仕事と仕事をつないで新しい付加価値を作っていくというのは本業でしようけれども、自分の会社に生産の拠点を持っていることも大きな強みになっていると思います。本業の強みを生かして、新しいビジネスプランを作った点が大きな特徴ではないでしょうか。

橋浦 今回の仕組みを作っていく上でRIPSで学んだことがどのような形で役立ったのかお聞かせください。

福田 さままま苦勞がありました。RIPSで自社と自分を見直す手順を学ばせていただいたことが大きいと思います。自分にある要素をどう組み立てれば、新しいビジネスプランを作ることができるのか、まず自分というものを壊すと言った大げさですが、そこからじっくり指導を受けながら整理したのは初めての経験でした。また受講仲間や先生方とディスカッションをする機会が頻りに設けられ、自分に足りないものに気づかされることも多かったので、大変有用な塾だったと思います。

大滝 この塾の特徴は、自分を徹底的に振り返ることを行っているからビジネスプランをどう考えるかを学び、実践する点です。もう一つは、専門のコンサルタントが密着して支援し、実践的見地からビジネスプランを鍛え上げて最終ゴールまで伴走する点。ここまでフォローするところは、他にそうはないと思います。

「豊かさ」を地域の中で循環する仕掛けとは

橋浦 RIPSの開塾は震災前から計画されていたものですが、震災後は復興



という新たなテーマが加わったと思います。RIPSが今後、どのように震災復興に寄与しようとしていらっしゃるのか、大滝先生の意気込みをお伺いしたいのですが。

出していくものなんです。このような「豊かさを地域の中で循環できる仕掛けが必要」という共通のイメージが生まれてきているのではないかと感じています。

大滝 たくさんの経営者の方にお会いして強く感じるのが、震災に遭遇したことで、自分の会社を経営する意義を問い直し、何をやるべきかが鮮明に見えてきた方が多いということです。その上で新しいものを作っていくときに必要なのが、やはり具体的なビジネスプランです。福田さんのプロジェクトは、復興の過程を通して新しいものを作り出し、地域の中に良い循環が生まれるような新しいネットワークを構築することによって、さらなる付加価値を生み



それは狭い意味での企業間連携だけでなく、企業とNPOが組むとか、企業と行政が連携することも含めた復興への取り組みというのが、これから私たちに期待されるのではないかと思います。そして、このような新しい包摂的な社会を仙台・宮城の中に作っていくことで初めて、復興から再生へとつながっていくのだと思います。ですからRIPSも復興から再生、創造へとという流れを加速できるような人材・イノベーションを育成する塾にしていかなければならないと考えています。

橋浦 地域の自立的な経済の活性化は、RIPSや私たち経済人、そして仙台商工会議所にも共通するテーマです。誰がやるのかではなく、みんな育てていかなければならぬということだと思えますので、RIPSの一つの成果として、



大滝 大学との産学連携と聞くと、多くの方が技術とか、ものづくりの部分を見ていくというイメージをお持ちになっていると思います。しかし、社会に出た人を鍛えるという点において、実は大学が担うことができる要素は非常に多く、

今回のビジネスプランコンテストでの受賞は、一つのマイルストーン(画期的な出来事、節目)になったのではないのでしょうか。
最後に、福田さんには今後の意気込みを、大滝先生には仙台商工会議所の会員の皆さんに期待することをお話しいただけますでしょうか。
福田 企業が担うことができる事業の大きさは、経営者の度量で決まると思っていますので、これからも自己研鑽を積みながら自分自身が成長し、切磋琢磨できる仲間と共に新しい地域づくりをしていきたいと思っています。

東北大学の「地域イノベーション研究センター」で言えば、経営人材や地域の経済を牽引するリーダーの育成に大きなウエイトを置いています。そういう意味での産学連携を、仙台商工会議所の会員の皆さんとも、もっと強力に進めていきたいと思っています。

仙台商工会議所は東北経済全体を担っており、会員企業の皆さんはリーダーシップをとるべき立場にあるということをより強く自覚した上で、人を育て、大きなビジョンを描きながら仕事をしていただきたいと思っています。そのためにもぜひ、RIIPSを始め、東北大学を存分にご活用ください。

橋浦 本日はありがとうございます。



第11回「YEGビジネスプランコンテスト」において、準グランプリを獲得した方々とプランの概要をご紹介します。

準グランプリ

【受賞者】

仙台YEG 櫻井 鉄矢氏

株式会社仙台買取館 代表取締役
株式会社志鷲 取締役副社長

【受賞者によるプランの概要紹介】

『レトルト介護食事業〜伝統食をお手軽に〜』

○わが国社会の高齢化が進む中で、今後、「高齢者向けの食事」へのニーズが高まっていくと予想されます。一方で、介護現場は、介護人材の不足、高齢者を抱える家庭の負担増(老老介護)等の課題が指摘されております。

○東日本大震災で甚大な被害を受けた当社は、風評被害に苦しみ被災地食品会社と協力し、「簡単に作れてレトルトに見えない」、「高齢者にとって昔から食べ慣れたもの(伝統食)が「ちそう」をキーワードに、高齢者の食事環境を改善するレトルト食品販売事業を立ち上げ、被災地の復興と雇用の確保に貢献していきたいと思っております。



準グランプリ

【受賞者】

仙台YEG 本山 泰督氏

本山振興株式会社 取締役事業推進室 室長

【受賞者によるプランの概要紹介】

『水産系廃棄物を利用した植物活性剤の製造・販売事業』

○水産系廃棄物の中で、ホタテのウロは人間の肝臓に当たり、アミノ酸等の有効成分が含まれておりますが、カドミウムが含まれている為に生産者は処理に苦慮しておりました。

○当社はプラント工事で培った熱水・高圧技術により、ホタテのウロからカドミウムを完全分離する装置を開発しました。この装置で製作した従来にない植物活性剤『アグリスケット』は果実や野菜の旨み・甘みが強くなる遊離アミノ酸が豊富に含まれています。特許出願中であるこの製品を通じて、被災地の生産業者と協力して、環境負荷低減と農産物の育成に力を入れていきたいと思っております。



準グランプリ受賞者には、日本YEG阿部会長(株)阿部蒲鉾店代表取締役社長)から記念のトロフィーが授与された。

本特集をご覧になって、YEG・RIIPSに興味を持たれた方は下記までご連絡ください。

【YEG】仙台商工会議所青年部担当：人づくり推進チーム TEL 0222-265-8126
【RIIPS】東北大学地域イノベーション研究センター TEL 0222-217-6265